

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
共育学舎とむゑとむ		2025年 10月 1日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動拠点に主に二つあり、自然の中で活動出来ることも重要視しており、広い空間で全身を使って遊ぶこともできる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		特に不登校の子の利用が多く、当日にならないと利用になるかどうかかわからない子が多いが十分な対応が出来るように、人員確保している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	バリアフリーにはなっていないが利用する子どもの特性に順応出来るように活動場所や活動内容を考慮している。	肢体不自由の車いす使用の不登校の子の問い合わせが来て、見学にいらしたが階段などがあり、利用することに至らなかった。将来どんな子たちも来られる設備にしていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		集団療育の利用者がメインの、オープンスペースの空間になっている活動場所と室内活動がメインの活動場所がある。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		子どもの支援に時間が割かれるがスタッフ間、風通しの良い、意見の言いやすい関係性であり、業務のしやすさに努めている。	常にPDCAサイクルが職員全員が意識できるように視覚化していくなどの工夫を努めていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○	毎年、アンケート実施出来ていないが、日常の利用での保護者との面談やSNS等のやりとりもこまめしており、保護者の声を把握しやすい関係性を持つことが出来ている。	毎年決まった時期に実施し、公表していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		スタッフミーティングのほか、共通認識を持つことが出来るようにスタッフ間できめ細やかかつポイントを抑えた業務が出来よう意見を出し合っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	オンラインセミナーで事業の評価及びPDCAサイクルの構築・運用についての研修、チームビルディング研修、社会的インパクト評価を職員の研修に参加する機会があった。	左記の研修を参考にしていく。第三者による外部評価を受けられる機会を今後持つ。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			法人内で全員参加の研修の実施はもう少し回数を増やしたいと考えている。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		公表内容を毎年見直していき更新する。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		毎日の利用者の記録を全員で共有しており、個々の段階に応じて支援の仕方を考えている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		スタッフ会議で個別支援計画を共有し、記録や子どもの支援会議、モニタリングの時期のほか、日常の中で保護者の要望などを聞き取りし、支援をしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		心理士等が在中していないのでフォーマルなアセスメントは出来ないが保護者から、医師や発達支援センター等で実施した結果や所見は提出していただいて認識している。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		月ごとに活動プログラム立案する担当スタッフ、活動場別に立案する担当スタッフ、子どもたち自身で活動プログラムを会議し、スタッフミーティングで職員全員で決定している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもたちの成長に合わせて、多種多様なプログラムをくふうしており、子どもたちが能動的に自分事として活動できるよう工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの発達、成長段階に応じて、その子の最適な活動を考慮し、実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		勤務時間の違いにより、開始前の打合せが難しい場合、引き継ぎを徹底しており、今日の利用者の様子を情報共有し支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		子どもたちが帰宅後職員間で振り返り、スタッフ全員で日誌のアプリで共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録は毎日全職員が共有できるシステムをとっており、月三回のミーティングのほか、最低月1回は保護者や学校の先生からも日常的に聞き取りをして支援内容に反映している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		日常の活動で、この4つを網羅できるように活動内容を工夫している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		子どものやりたい事、やりたくない事を尊重し、活動内容も子どもミーティングで決定している。安心安全な場をで自分の意思を伝えられるような環境調整に力を入れている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		月1回程度の活動内容等情報共有、利用状況報告を子どもと登校したり、メール、FAXで文書を送付することもある。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	必要時、情報を取得し、支援に役立てられるよう共有することがあるが全員ではない。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	保護者から時々、聞き取りをしたり、事業所のお祭りなどで来所しやすいようにして本人や本人へ情報共有をすることはあるが全員はできていない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	年に1度、面談はしているが多くない。活用しきれていない。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		子ども食堂やプレーパーク、また、イベントを実施したり参加したりすることで、子どもたちだけでなく多くの方との関わりが持てるよう意識して活動している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	興味あるテーマの会合にはなるべく出席する湯にしている。	特定の職員ではなく分担して参加できるようにする。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		臨床心理士さんのお話し会など、年に数回の保護者向け相談会、お話し会を実施している。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		連絡アプリ、LINE、電話、面談などいつでも相談を受けやすいようにしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会はないが、家族で参加できるイベントや活動、地域子ども食堂などを実施しており、家族の様子を理解しやすい場面を設定し、スタッフと保護者、あるいは保護者同士のコミュニケーションを設けている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		特に重要なことは口頭ではなくおたよりやメール文など、視覚で確認できるようにしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わった事業運営を図っているか。	○		地域子ども食堂、法人のお祭り、イベントなど利用者以外の方たちも参加できる活動や子どもたちの活動プログラムに地域の方々に協力していただき多くの関わりつながりが出来るようにしている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	災害時の避難訓練やマニュアル作成をしているが左記の全部は網羅できていない。	今後早急にマニュアル作成に努める。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		各活動場所で災害等に備えた避難訓練を定期的に実施している。また、災害に必要な備品も用意できている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	給食やおやつを出すので、保護者の情報提供を実施し、十分な確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に文書を交えて説明をしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		活動が自然の中で遊び、過ごすことがあるので検討は十分にしており、外部講師による、指導も子どもたちとともに受講することもある。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		法人内の虐待防止委員会を実施し職員間共有している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		ほとんど、そのような支援が必要ない。 （必要時は本人と周りの子どもたちが安全に過ごすことが出来ることを重視し、保護者に説明して、了解を得て、実施後は状況説明をする。）	